

「巡検会報告」

大矢野町湯島の地質

菊池南中学校 上田陽一郎

爽やかな五月晴れのもと、標記の巡検会が平成6年5月22日に実施された。案内は熊大・理学部の岩崎泰顕先生、参加者は26名であった。

大矢野町江樋戸港より80名乗り、10時発のチャーター船を使い、15分程で湯島に到着した。

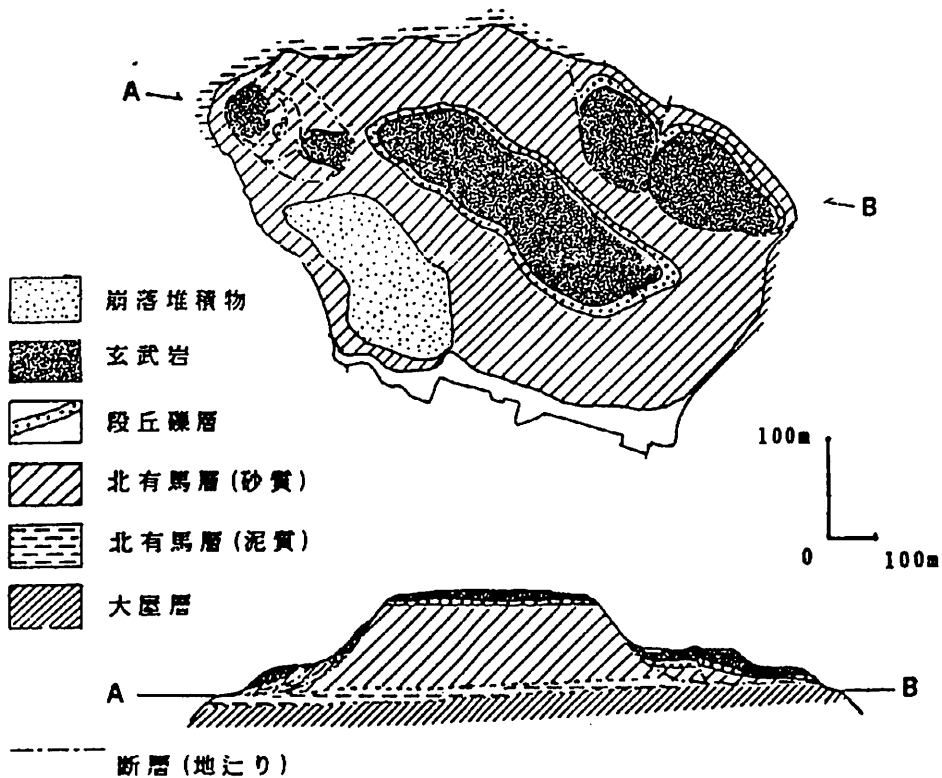
湯島の大部分を構成する北有馬層は口ノ津層群に属し、島原の地層と対比して、その地質年代は今から70～160万年前のものと考えられている。この層の下位に位置する大屋層（凝灰質砂岩・泥岩）は島の南東部にほんのわずか見られるだけである。今回は湯島を東

部から北部へと左回りのコースで徒歩巡検を行った。幅1～3m程の道路を東側へ20分ほど歩き、最初の目的地の湯島小・中学校北側の海岸へと到着した。海岸の潮はひいており、黒色の玄武岩が多数その姿を現していた。岩塊上を海岸線づたいに歩き、北有馬層と礫岩の不整合、その上の玄武岩の好露頭を観察することができた。北有馬層は固結度の低い細粒砂岩層であり化石も多数含まれている。その上の礫層にはチャートが多く含まれ礫がほとんど円磨されていることから海成であると考えられる。最上位の玄武岩は比較的多孔質なものが多く、サンプルを採集する際は、海岸の転石を割って採集するとよい標本が得られる。

島全体の上面には玄武岩がのっているため水平な地形となっているが島の縁の部分は地滑り状態で崩落しており走向・傾斜はほとんどばらばらである。垂直に立っている層、陸側へ向かって傾斜している層も多くみられた。

再び海岸道路沿いを歩き、北有馬層の上部の露頭をみながら西側の海岸において、砂質層がほぼ水平に露出している層から化石の採集を行った。化石はウラカガミ、ウミタケの他植物化石も多く含み、多数産するが、極めて固結度の低い砂岩や泥岩中にあり、ほとんど殻も溶けており、採集するには化石を壊さないよう丁寧に扱う必要がある。ここで昼食を取った。

午後は灯台から東側へ急坂を登りながら台地の上へ上がっていった。途中、崩落堆積物などを観察しながら海拔104mの頂上（峰公園）に到着、ここには展望台があり、また、キリスト教徒の墓碑などもある。平坦地のため露頭は見られなかった。再びチャーター船で江樋戸港へ戻り解散式を行った。今回は徒歩による巡検であったが参加者全員気持ちの良い汗をかくことができた。最後に終始丁寧に案内していただいた岩崎先生に感謝申し上げて巡検会報告とする。



湯島の地質図 (中尾賢一, 1988 MS を一部改変)

湯島の地質層序

地層名	岩 相	
崩落堆積物	地すべり堆積物?	
玄武岩	普通輝石・橄欖石 玄武岩 (10m)	
段丘礫層	よく円磨された礫からなる 未固結の礫層 (7m)	
北有馬層	上部砂質部	固結度の低い砂 岩と泥岩 (100m)
	下部泥質部	青灰色を呈し貝 化石を産する。 (20m+)
大屋層	黄緑色の凝灰質砂岩・泥岩 (10m+)	